

13Gへ、引継ぎの時、作業工程で動画をアップすると言いましたが、道本部では容量の関係で、できなかったようです。急に若返ったチームで本当に、本当にうらやましいです。残りの期間、組織全体1～12Gの活動を13Gが総括するという意気込みで取り組んでください。「ともにがんばりましょう」（私も地元に戻り、放置していた仕事に手を付け始めました。影ながら13Gの活動を応援しています。）

北海道人に暑さは厳しいかも知れませんが、体調にはくれぐれも、特に「熱中症」には、本当に気をつけて下さい。 休むのも勇気です！

皆さんが無事に、北海道に帰ってくることを心待ちにしています。 それでは！

謎の報告者より。

タイトル 「12G 任務完了！ それぞれの地へ！」

7月3日（日）活動8日目（帰路に向けて）

私たち12Gは、昨日合流した13Gに現地での引継ぎのため、竹鼻・鈴木・青柳が、一路山田町に向かう。それにしても11Gからの引継ぎの際には、「急に年齢上がったねー。」と言われたのに、12G→13Gでは年齢が急に下がった。（どんな人選だ！道本部？ネタです）と青柳氏は、昨日の夜からおにぎりに続きブツブツブツブツ。



いつもの渋滞や資材・用品の場所など業務手順一通りを伝授し、免許皆伝を受けた13Gは早速がんばっていた。（13G報告1の掛矢隊。あれは⑤の山谷コミュセンですね。） 山田町を後にする。



一方、女性隊員2人は非番を利用し、豪華な朝食。



←

帰り際に被災視察の宮古市田老地区を訪れる。(3階の天井まで水が届いている。下から見上げると恐ろしくなる。)



盛岡到着！(ホテルは個室。なんだかうれしい！)

(初日の大部屋 30 人は強烈というよりも洗礼だった。)

「支援活動の総括。反省・座談会。」



(被災地での業務を終えた 12G のメンバー。)

復興には 10 年以上かかると言われている。10 日間程度で何ができたのか？ 自己満足はしていない、各自がそれぞれにこのまま帰っていいのだろうか、心の奥には被災地への想いが残っていた。

震災から 100 日余り、平日土日時間外、職員自身も被災者である。避難所に帰る職員の方、メンタルになる方、行方不明となっている職員もいるという話を聞いて、身を粉にして働いてきた山田町職員の方には、本当に頭が下がる思いだった。